

V 県民の文化活動を盛んにする

1 文化の振興

(1) 県民文化芸術活動の振興 << 施策 25 >>

社会教育課

令和2年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 次代を担う子どもたちの創造性を育み、多様な個性と豊かな人間性の形成を図るため、関係機関との連携を強化しながら、子どもの文化芸術活動を推進します。
- ◇ 県立美術館の機能充実に努め、県民の鑑賞・創作活動の促進を図ります。
- ◇ 令和2年2月に策定した「福岡県文化芸術活動の在り方に関する指針」に則った適正な運営により文化芸術活動の推進を図ります。

令和2年度 主な取組・事業

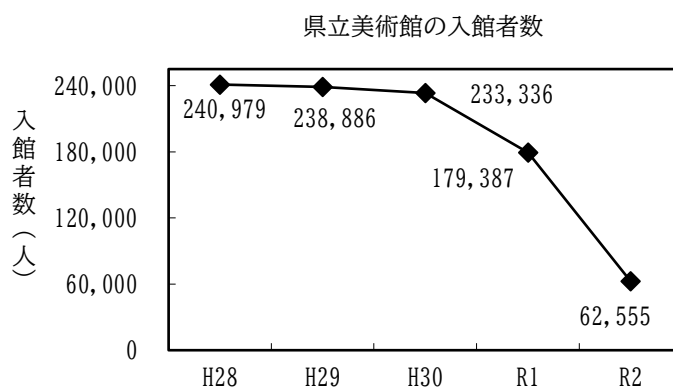
取組・事業名	実績
子ども文化事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民文化祭「鑑賞・発表事業」の実施 2市 ○ 県民文化祭「芸術体験講座」の実施 17校（小学校11校、中学校3校、義務教育学校1校、特別支援学校2校）
中学校文化連盟 ^{注1)} 、高等学校芸術・文化連盟 ^{注2)} への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福岡県芸術・文化活動事業補助金の交付 ○ 総合文化祭の開催に関する広報協力など
県立美術館の機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展覧会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展 <ul style="list-style-type: none"> （コレクション展Ⅰ） 「特集：野見山暁治の水彩・素描」 （コレクション展Ⅱ） 「特集：赤と黒」 （コレクション展Ⅲ） 「特集：風景に遊ぶ」 ・ 企画展 <ul style="list-style-type: none"> 「1694－福岡県文化会館、誕生。」 次年度に延期 「郷土の美術をみる・しる・まなぶ 2020 生きることから－柏崎栄助とデザイン」 ・ 実行委員会展 <ul style="list-style-type: none"> 「ストラスブール美術館展」 中止 「没後70年 吉田博展」 ・ 令和2年度福岡県立美術館所蔵品巡回展 <ul style="list-style-type: none"> 「移動美術館展」（大牟田市で開催） ・ 第76回福岡県美術展覧会（県展） 中止 ○ 県民の芸術活動発表の場としての展示室貸出（34団体） ○ 美術館レター「とっぷらいと」の発行（年3回）及び美術教養講座の実施 ○ スクール・ミュージアム事業（アートコース）の実施（6校） ○ 「どこでもケンピ」（バーチャル美術館事業）の開設（令和3年3月29日） アクセス件数 6,493件

※ 延期又は中止は新型コロナウイルス感染拡大防止によるもの

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値	達 成 状 況
県立美術館の利用	県立美術館入館者数 ※	62,555 人 (R2 年度)	160,000 人 (毎年度)	—

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため休館 令和2年2月から5月まで



成 果

「どこでもケンビ」(バーチャル美術館事業)を新たに開設しました。

- ・ 県民文化祭において、知事部局と連携し、「鑑賞・発表事業」を県内市町村で、「芸術体験講座」を県内の小・中・義務教育学校・特別支援学校で実施しました。特に「芸術体験講座」において、楽器演奏、能楽、和太鼓等の体験及び鑑賞を行ったことが、児童生徒から好評価を得ています。
- ・ 福岡県中学校文化連盟が実施する事業に対し支援を行ったことにより、生徒の文化芸術活動の充実が図られました。
- ・ 自宅等にしながら、当館の美術品をじっくり鑑賞することができ、子どもたちの学習に役立つサイト「どこでもケンビ」(バーチャル美術館事業)を開設しました。

課 題

県民の美術鑑賞の機会の確保や創作意欲を高めていく必要があります。

- ① 新型コロナウイルス感染拡大の影響により来館者が減少しました。
- ② 来館者の安全を図りながら、県民の美術鑑賞の機会の確保や創作意欲を高めていく必要があります。

対 応

マスコミとの連携による効果の高い広報や、ホームページやSNS等を使った情報発信を積極的に行います。

- ① コロナ禍で実行委員会展の入場者数は伸び悩んだものの、アンケートの満足度は非常に高く、それが図録の売上増加にも表れました。今後も県立美術館の財産やノウハウを生かした満足度の高い展覧会を開催し、県民の美術に関する鑑賞・創作活動の更なる促進を図ります。
- ② 福岡県美術展覧会(県展)の出品数の増加や集客力を高める取組として、出品しやすい作品規定の変更を周知し、マスコミとの連携による効果の高い広報、ホームページや新たにSNS等を使った情報発信を積極的に行います。

注 釈

注1) 中学校文化連盟: 県内の中学校及び特別支援学校中学部の生徒の文化活動の振興・発展を図ることを目的に、福岡県中学校総合文化祭等の事業を行っている団体。美術や音楽等11の専門部を有する。

注2) 高等学校芸術・文化連盟: 県内の高等学校及び高等部を設置する特別支援学校における芸術文化活動の振興を図ることを目的に、福岡県高等学校総合文化祭等の事業を行っている団体。演劇や吹奏楽等19の専門部会を有する。

V 県民の文化活動を盛んにする

1 文化の振興

(2) 文化財の保存・活用及び継承 <<施策26>>

文化財保護課

令和2年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 歴史と伝統に培われた貴重な文化財を永く後世に伝えるため、福岡県文化財保護基本指針を踏まえ、保護活動の充実を図り、情報提供や文化財に対する理解を深める施策を推進します。
- ◇ 地域の文化や特色を伝承する民俗芸能及び伝統工芸技術を確実に保存し、積極的に活用しながら後世への継承を図るとともに、本県の歴史を知る上で重要な遺跡等の保存・整備・活用を進めます。
- ◇ 子どもたちが郷土と日本の歴史、文化、伝統などに対する理解を深め、これらを大切に思う心を育成します。

令和2年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
九州歴史資料館の利用促進、調査・研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別展（1回） 「福岡の至宝に見る信仰と美」 ○ 企画展（7回） 「調査成果展「出土品から見た『福岡県の戦争遺跡』」等 ○ パネル展（5回） 「新九州歴史資料館 10年のあゆみ」等 ○ 教育普及講座（32回） 名誉館長講座、九歴講座、九歴ゼミ、夕べのギャラリートーク、特別展開催記念講演会等 1,338人参加 ○ イベント（10回） 特別展関連イベント・古代体験等 445人参加 ○ 小中学校の来館学習、出前講座等 1,444人参加
旧福岡県公会堂貴賓館の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定管理者によるフラワー教室、オンライン朗読会、飾花イベント等自主事業（63件）の実施
福岡国際交流史発信事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査研究の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖ノ島と関連遺産群から出土した玉類 ○ 朝鮮通信使に関する企画展の実施 ○ 特別史跡大宰府跡・水城跡 100周年記念映像制作実施
福岡歴史文化発信・体感事業の実施 <重点事業17>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財を活用した歴史体感学習事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 古代体験の充実 ・ 県指定三沢遺跡での発掘体験の実施 ○ 県内文化財の情報発信事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去に刊行した文化財調査報告書等のデジタル化 ・ 福岡の至宝・里帰り展の実施

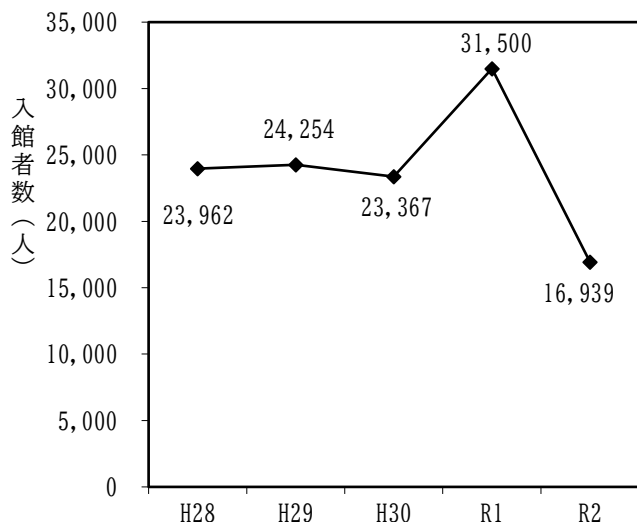
指 標

指 標	指 標 の 概 要	
九州歴史資料館の利用	九州歴史資料館 入館者数 ※1 ※3	
現状値	目標値	達成状況
16,939人 (R2年度)	35,000人 (R3年度)	—

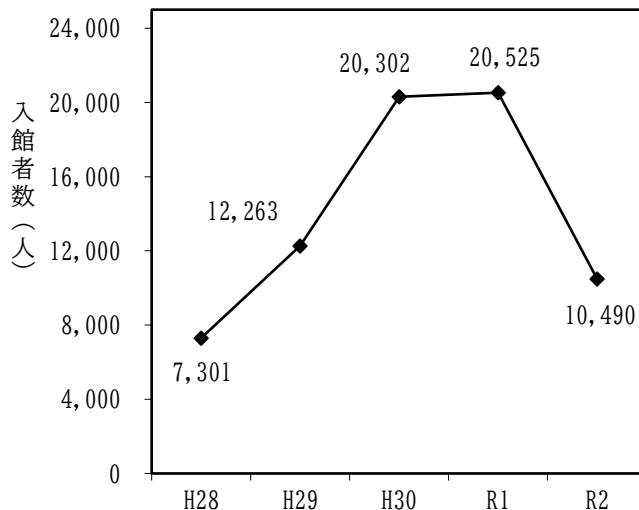
指 標	指 標 の 概 要	
旧福岡県公会堂貴賓館の利用	旧福岡県公会堂貴賓館 入館者数 ※2 ※3	
現状値	目標値	達成状況
10,490人 (R2年度)	23,000人 (毎年度)	—

※1 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため休館 令和2年2月から5月まで
 ※2 " " 令和2年4月から5月まで
 ※3 イベントの中止及び人数制限 令和2年2月から令和3年3月まで

九州歴史資料館の入館者数



旧福岡県公会堂貴賓館の入館者数



※ 平成30年8月～令和元年10月は、耐震化工事のため第1、第3展示室を閉室

成 果 九州歴史資料館及び旧福岡県公会堂貴賓館では、家でも文化財に親しむことができる環境整備を行いました。

- 九州歴史資料館では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、常設展をはじめ、特別展、企画展、各種イベントを実施するとともに、家でも展示の観覧や歴史を学ぶことができるように動画を配信するなど、歴史文化遺産の魅力を様々な方法で発信することができました。また、文化財を様々な角度から観覧できる映像制作等を行いました。
- 旧福岡県公会堂貴賓館では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、指定管理者による来館していただくための事業を行うとともに、家で館内を見学できる映像コンテンツを作成、発信を行いました。
- 福岡国際交流史発信事業によって、多くの人々に様々な方法で、福岡県の歴史的特色である国際交流の歴史及び関連する文化財の魅力を発信することができました。
- 福岡歴史文化発信・体感事業によって、子どもたちが歴史文化をより深く体感しながら学習することができるようになりました。

課 題 九州歴史資料館では、新たな入館者の開拓につながる取組が必要です。

- 九州歴史資料館については、館周辺の開発も進んでおり、多彩なイベントや展示の実施に加え、近隣住民を含む新たな入館者の開拓につながる取組や学校教育との一層の連携が必要です。
- 旧福岡県公会堂貴賓館については、文化財の保護を図りながら、引き続きその価値や魅力を発信していく必要があります。
- 福岡歴史文化発信・体感事業については、文化財の確実な継承のため、より多くの県民に文化財への興味関心を抱いていただく必要があります。

対 応 九州歴史資料館においては、市町村や学校、民間企業等と連携した展示やイベントを実施します。

- 九州歴史資料館においては、入館者の拡充を図るため、県内市町村、国立博物館や他県施設と連携した展示や講演会等の開催、学校や民間企業等と連携したイベントを行うとともに、あらゆる来館者に配慮した展示を行います。また、ホームページ等を活用し、イベント等の情報発信を行います。
- 旧福岡県公会堂貴賓館については、指定管理者と連携協力しながら、貴賓館の魅力を生かした事業を実施するとともに、ホームページや各種媒体を活用した積極的な情報発信を行います。
- 古代体験の充実、文化財調査記録のデジタル化を行います。